

全国保育実践交流連絡会ニュース

2024 年 2 月号 東北地区

今年の冬は、豪雪地のここ会津にも雪が積もらず、例年ならば毎日雪遊びを楽しめるのですがこの冬は数えるほどしかできませんでした。温暖化の影響を強く感じる冬でした。雪国にとっての雪は春に大量の雪解け水となり私たちにたくさんの恵みをもたらしています。豊富な雪解け水は稲作にはもちろんですが工業用水や水力発電にも欠かせないものです。また、豪雪地の地域では「結（ゆい）」と呼ばれる相互扶助の文化が育まれ、田植えや稲刈り、家の補修、冬の雪かきなどの作業を、住民が共同で助け合いながら行ってきました。厳しい自然環境の中で生まれた助け合いの心で厳しく長い冬を越えてきたのです。この暖冬がきっと保育にも影響を与える事でしょう。“保育の一番大切な環境は人的環境である”という言葉に胸に様々な工夫を職員みんなで考えながら、その時出来る最善の保育をしていきたいと思っています。

東北地区 4 県の冬の子どもたちの様子や各園の取り組みを紹介していきたいと思います。

〈宮城〉

錦保育園・くるみの木保育園・さくら保育園

3 園 2 泊 3 日スキー合宿



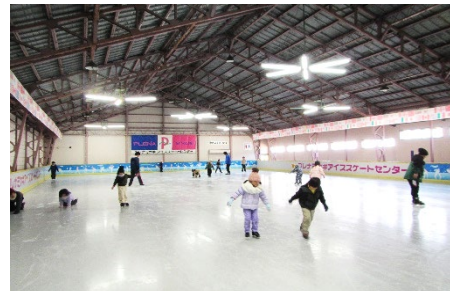
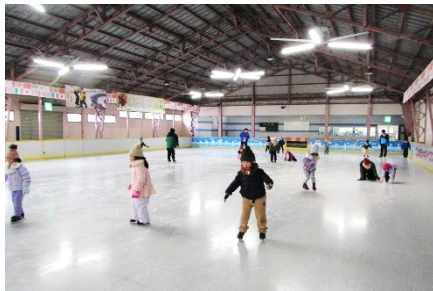
2/8～2/10 に今度は年長児が岩手県八幡平で 2 泊 3 日のスキー合宿を、錦・くるみの木・さくら保育園で行いました。初めてのスキーに戸惑う姿もありましたが、徐々に仲間と一緒にスキーを行う事で「楽しい」と表情も変わっていききました。滑れるようになった事でまた一つ自信へとつながったようでした。

3 園 4 歳児そり遊び合宿

2/1(木)～2/2(金)の 1 泊 2 日で岩手県一関市祭時スノーランドにて、錦保育園、さくら保育園と 3 園で 4 歳児ソリ合宿を行いました。初日、吹雪の中子ども達は斜面を何度も登り、滑り、天候にも左右されることなく沢山楽しんで来ました。今年も雪に触れて遊ぶ機会が少ない中で思う存分雪に触れ遊ぶことが出来ました。



石巻たから保育園 年長児スケート体験



2 月に年長の子どもたちはスケートに行きました。初めてやる子がほとんどでしたが、インストラクターさんに滑り方を教えてもらい、何度も転びながらも向かって行く子の姿もあり、全員が自分で滑れるようになりました。改めて、子どもたちのたくましさを感じたところです

石巻ひがし保育園 例年にない積雪で雪遊び



石巻ひがし保育園のある石巻市渡波地区は例年雪が降ってもなかなか積もりませんが、今年は珍しく雪がたくさん積もった日が数日あり、以上児を中心に外に向かっていきました。1日を通して未満児は平たんな場所でそりに乗り、以上児などは雪合戦、そり滑り、かまくら・雪だるまをつくり、冬の遊びを楽しむことが出来ました。

〈福島〉

いわき・さくらんぼ保育園

2月8日に4歳児クラスで味噌作りを行いました。給食さんに教えてもらいながら大豆を足でつぶし塩と麴をまぜ、まるめて樽に投げ入れました。大豆を足でつぶす作業では始めは戸惑いながらもそのうちだいたんに足踏みして楽しむ姿がありました。

丸めた大豆を投げ入れるのもなかなか出来ない体験に歓声を上げて楽しんでいました。

みんなが年長さんになった秋の収穫祭にはこの味噌で豚汁や味噌おにぎりを作って味わいたいと思います。



好間保育所

年長さんが自分で作った鬼のお面をかぶり、豆まきをしました。

年長鬼がやってくると、泣きながらも「鬼は外〜！」と必死に豆をまく小さい子どもたち。年長さんも大満足の節分でした。お昼は所庭で焚き火をした炭でいわしを焼き、みんなでおいしく食べました。いろんな事に挑戦し、毎日を一生懸命に過ごし楽しんでいる子ども達です。





2 日間は、スキー経験のある子も、全くない子も一緒のグループで基本を一から教わります。練習の過程では「感じ、考え、行動する」という体験学習のサイクルを何度も繰り返します。その中で転んでもめげない強い心や、一つ上のレベルに挑戦する向上心や勇気などを育む事ができます。また、自分自身のスキーレベルを上げる事だけではなく、一緒に練習をする仲間のことを励ましてあげたり、待っていてあげたり、時には助けてあげたり、逆に助けてもらったりといった中で、今まで以上の思いやりや仲間意識も芽生えます。それが、スキーだけではなくお泊りで生活も共にしながら行うスキー合宿の特色です。

保護者の方とも事前に打ち合わせをして、自分の子どもとは別のグループになること、手出し口出しは控えてもらう事も伝えます。スキーの基本が身につくまでは、何度も気持ちがくじけそうになります。仲間と一緒に乗り越えられる場面も、お父さんやお母さんのちょっとした言葉がけなどにより、気持ちが崩れ、乗り越えられないことがあります。年長期のスキー体験の意義は、どこまでも“仲間と一緒に”というところにあります。

〈青森・岩手〉

是川保育園 職員学習会



職員の学習会の1つとして、今年度は10月に、ドキュメンタリー映画『荒野に希望の灯をともし 医師中村哲現地活動35年の軌跡』を鑑賞しました。2日間にわたり、計6回の上映だったため、時間をずらしながら、全職員が見に行けるように工夫し取り組みました。アフガニスタン、パキスタンで、病や貧困に苦しむ人々に寄り添い続け“武力で平和は守れない”ということを伝え続けた中村哲さんの生涯を

見つめ、平和とは何か、幸せとは何か、今、世界で起こっていることにしっかりと目を向け、考えていかなければと改めて思いました。

1月からは成田奈緒さんの『「発達障害」と間違われる子どもたち』の読み合わせをしています。朝日を浴び、十分に寝て、規則正しい時間に栄養のあるものを「おいしい!」とよく食べる、大人もきちんと睡眠をとり、安定した生活の中で幸せな気持ちを持ち子育てに向かう。子どもを変えようとする前にまずは自分自身を見つめ直す。当たり前のようではなかなかできない所を、様々な事例を踏まえながらわかりやすく書かれていて、子ども達の午睡中に、読み合わせを進めている最中です。



卒園児もちつき会

1月6日(土)に卒園児もちつき会を開催し、小学校6年生までの卒園児、約60人が参加してくれました。もちつきやコマ回し、園長とお茶会を楽しんだ後、『旅するピカドンピアノ』の絵本を6年生に読んでもらい、スライドでの上映会を行いました。1945年8月6日、午前8時15分に起きた事実や、被爆2世である広島調律師、矢川光則さんと、原爆を乗り越えた奇跡のピアノとの出会いを、小学生にもわかるような物語にしたものです。見た後には、感想や平和への願いなど、自由に思ったことを書いてもらいました。”力で解決しようとしないう世の中になってほしい””誰も悲しまないようなだれもがしあわせになれるような世界になりますように”…。子ども達の真剣な願いです。

昨年度も『へいわってどんなこと?』の絵本で同じような取り組みをしたのですが、子ども達の目の前に、ウクライナやガザ地区での戦争のニュースが当たり前のように流れる日々があるからなのか、昨年よりも真剣に向き合って思いを書く姿が印象的でした。卒園児だけでなく、職員、保護者、2歳児部会に参加した東北ブロックの保育士さん達にも書いていただき、ホールに展示しています。

矢川さんと一緒に、今年度も被爆ピアノが来園し、被爆ピアノコンサートを開き、ひなた保育園の年長、是川地区の隣の保育園の年長さんも一緒に戦争について考える人になりました。



後期 2歳児部会 2023年12月19日(火)～20日(水) @青森・是川保育園

後期は、東北ブロック全体で集まっての部会となり、絵を見ながらの実践報告だけでなく、グループ討議で意見を出し合ったり、悩みを共有したりの2日間でした。講師には、元さくらんぼ保育園園長の大島映子氏をお迎えし、保育実践の中からのアドバイスや、ご自身のルーツなどをお聞きし、とても深い学びの場となりました。

後期は、東北ブロック全体で集まっての部会となり、絵を見ながらの実践報告だけでなく、グループ討議で意見を出し合ったり、悩みを共有したりの2日間でした。講師には、元さくらんぼ保育園園長の大島映子氏をお迎えし、保育実践の中からのアドバイスや、ご自身のルーツなどをお聞きし、とても深い学びの場となりました。
<感想>

東北の10園が集まり、他園の様子や悩みなどを知ることができ、とても貴重な学びとなりました。自分自身と同じ1年目の保育士さんと、自分の悩みで子どもが「できない」と言ったときの対応について同じ悩みを持っていると共感でき、他園の保育士さんからアドバイスしていただき、学ぶことができました。

グループ討議では“保育に正解はないけれども正解を探してしまう”という悩みについて聞いていただき、自分よがりの保育にならないこと、保育者同士のコミュニケーションも大切で、保育の違いがある場合は話し合う勇気を持つのが大切ということを学びました。真剣に話を聞いてくださり、悩んでいるのは自分だけではないのだと、職員、保護者、子ども達と支え合って、楽しく毎日の生活を送りたいと思いました。

〈是川保育園 里見瑠望〉